

Value & Quality

VALQUA GROUP
CSR REPORT 2019



VALQUA GROUP CSR Report 2019

CONTENTS

03	トップメッセージ	14	Human Resources	人権尊重／ダイバーシティ
06	バルカーグループ概要 真のグローバル企業を目指して	15	Human Resources	人材育成
08	バルカーと社会との関わり	16	SHE	SHE委員会
		17	SHE	SHE基本方針
		18	SHE	安全衛生推進活動
		19	SHE	環境保全への取り組み
		20	Production	顧客満足への取り組み
		21	Production	サプライチェーンマネジメント
		22	Community	地域社会との共生
		23	Community	国際支援／スポーツ支援
		24	Governance	コーポレートガバナンス
		25	Governance	コンプライアンス
		26	Governance	コンプライアンス／リスクマネジメント
		27		報告概要

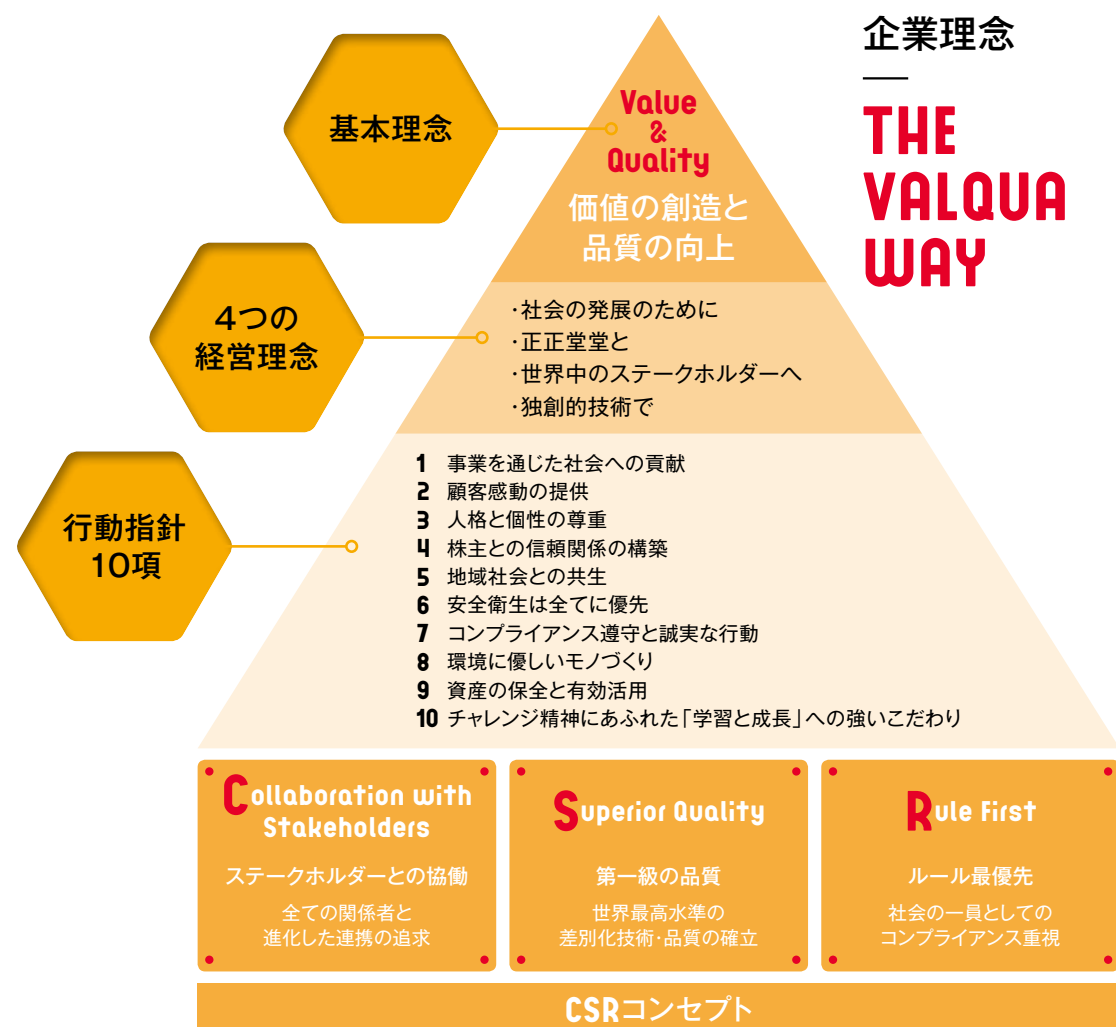
【 Feature 】

10 特集① 人材

人材ダイバーシティの推進
グローバルに活躍する女性管理職

12 特集② H&S

中国における事業展開、シール講習会、
技能訓練サービスの拡充
顧客感動の提供と安全で快適な社会の
発展に貢献



TOP MESSAGE

未来を切り開くソリューション企業
「H&S企業」として、
持続可能な社会の実現に貢献していきます。

お客さまと共に、
健全で持続的な成長を

我々バルカーグループの社会的責務は、世界レベルで外部環境が激しく変化していく中において、常にお客さまに感動を提供する企業、そしてあらゆるステークホルダーから信頼をいただける企業であり続けることです。

お客さまの要求に応えられる技術力に裏づけされた商品 “H” (hard=products) を提供するだけでなく、お客さまと共にUnmet Needsを掘り起こし、独創的な技術とサービス “S” (seal-engineering service) を提供し、“H&S企業” としてお客さまの課題解決に取り組むことで、持続可能な社会づくりに貢献できるものと考えています。

また、CSR活動の中で社会とのコミュニティとしてボランティア活動やボールルームダンス支援などを通じて、子どもの健やかな成長、障がい者など誰もが活躍できる「明るい未来づくり」にも努めています。

これからもバルカーを取り巻くたくさんの人々に寄り添い、感動を提供することにより、健全で持続的な成長を目指していきます。

「THE VALQUA WAY」のもと、グローバルに対応した CSR 活動の推進および強化

バルカーグループにとってのCSR活動は、これまで本業そのものの実践であるとして取り組んできました。しかし、企業に要請される社会の期待や責任はますます

多岐にわたり、また国際基準GRIスタンダード、SDGs(持続可能な開発目標)などが認知され、本業の枠を超えた活動の要求が、今後ますます高まっていくと考えられます。

そのため、今年度より「CSR協議会」を「バルカーグループCSR推進委員会」に変更し、国際的な基準に基づきグローバルでのCSR活動の推進をさらに強化する体制としました。

世界中のステークホルダーに寄り添い、本業の枠を超えて企業価値を創造することこそが、社会の持続的発展に寄与するためには重要であると考えています。

外部環境が激しく変化していく中においても、「THE VALQUA WAY」は、普遍的なCSRの基盤であることには変わりありません。また、「THE VALQUA WAY」は、国連で採択された持続可能な社会の実現に向けたSDGsの考えとも合致しています。

「THE VALQUA WAY」のもと、創業100周年に向け、さらなる期待と信頼をいただける最良のパートナーであり続けられるよう、進化と変革を進めていきます。

バルカーパーソンとして自らの価値を高め 社会の発展に貢献

昨年10月の社名変更の背景には、「企業価値の創造と経営品質の向上」に向けて、「H&S企業への脱皮」とともに、海外事業のさらなる拡大、機能の充実のために、社員のダイバーシティ化を推し進めていこうという覚悟が込められています。人員構成の約半分が海外人材であるバルカーグループは、ダイバーシティ化や多様な国籍を持つ従業員が活躍できる環境づくりなどに、早期から取

り組んできました。

また「人格と個性の尊重」という行動指針に基づいて、「バルカーグループ人権基本方針」を制定し、国籍・性別・年齢・宗教などにとらわれない企業活動を徹底して推進しています。

本年は、第8次中期経営計画 NV・S8の2年目にあたり、NV・S8で策定した「時代の変化を先取りした人材開発と企業風土の改革」のもと、さらに従業員のダイバーシティ化を推し進めています。グループの成長を支えるバルカーパーソンのために、柔軟な働き方を支援する制度の導入などにより「個」の能力を最大限に発揮できる環境を整備するとともに、経営幹部研修、次世代幹部育成のための早期選抜研修、階層別トレーニングおよびOJT教育をはじめとする個人のスキルアップなど人材開発・育成も行っています。

国内外で活躍できるグローバル人材を開発・育成するとともに、全従業員一人ひとりが「バルカーパーソン」として、それぞれのバックグラウンドを認め合い、それを生かして自らの価値を高めていくこと。そして「THE VALQUA WAY」を深く理解し、共有し、実践していくこと。これにより、健全なる持続的成長を実現するとともに、社会の発展に貢献できると考えています。

2019年9月
バルカーグループ代表
株式会社バルカー 代表取締役会長CEO

龍澤 利一

第8次中期経営計画 NV・S8 (New Valqua Stage Eight)

バルカーグループは、2018年度から「NV・S8」をスタートし、今年2019年度で2年目です。「NV・S8」では、「H&S」を軸とした健全で持続的な成長を目指し、以下の4つの基本方針のもと、収益力の強化を図るとともに、企業基盤の整備を行っています。

1. コーポレートガバナンスのさらなる充実
2. 「選択と集中」による事業、機能の見極めと積極的な成長投資の実行
3. グローバルな収益基盤の拡大強化
4. 時代の変化を先取りした人材開発と企業風土の改革

※ 持続可能な開発目標
(Sustainable Development Goals : SDGs)

貧困、格差、気候変動、持続可能な消費と生産など国際社会共通の課題に対し、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットを2015年に国連が採択。より良い世界づくりに向けた行動が要請されています。

CSRマネジメント

持続可能な社会のために

バルカーグループは、企業理念「THE VALQUA WAY」のもと、たゆまぬ成長を目指して日々挑戦を続けていきます。そして、創業以来培った技術とサービスで社会とお客さまの課題解決につながる価値を創造・提供し続け、持続可能な社会のために貢献していきます。

CSR推進体制

企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、2019年度より事業視点でCSR活動の連携強化を図るため、CSR推進体制を「CSR協議会」から「CSR推進委員会」へと変更しました。CSR推進委員会を開催し、各部門で推進するCSR活動の進捗状況の報告や意見交換などを行い、グループ内の連携を強化しています。また、その結果を半期ごとに常務会で報告しています。



CSR活動重要テーマ

バルカーを取り巻くグローバル社会のさまざまな課題に対し、複数のテーマを設定し、CSR活動を推進しています。本年2019年度からは国際基準GRIスタンダード、SDGs(持続可能な開発目標)など、国際社会からの期待に配慮した活動の展開に努めています。今後も、重要課題(マテリアリティ)を定期的に検証し、PDCAサイクルを循環させていきます。

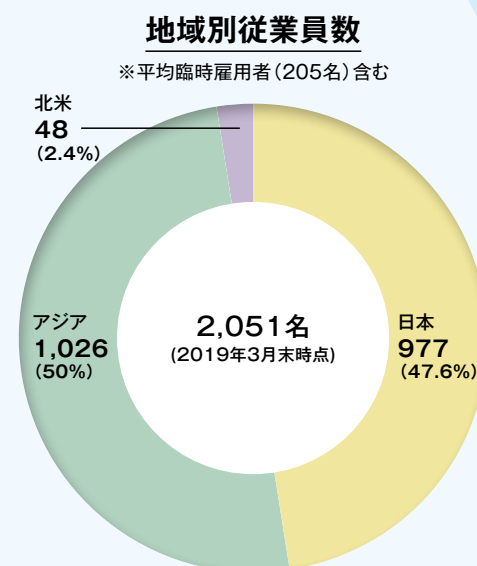


株式会社バルカーに商号変更

真のグローバル企業を目指して

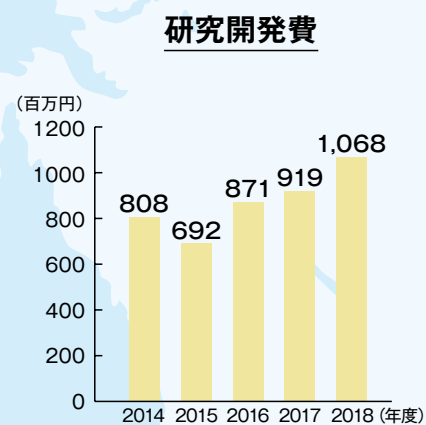
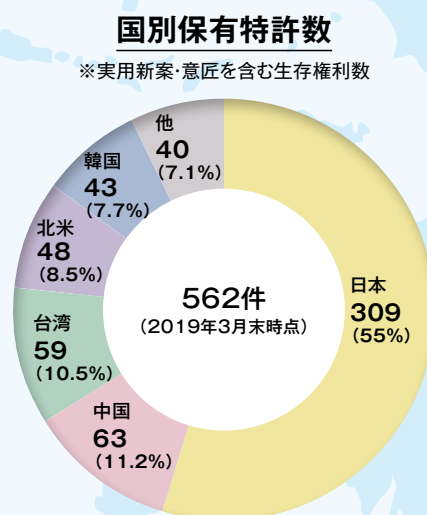
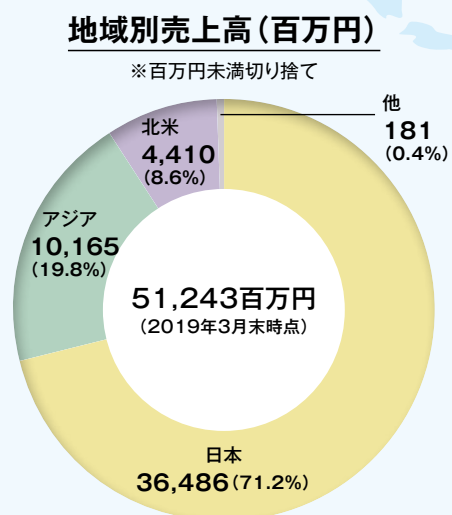
2018年10月1日、私たちは“第二の創業”の決意とともに、「株式会社バルカー」に商号変更。常にステークホルダーの皆さまに寄り添い、期待にお応えできるよう、世界を舞台にチャレンジを続けます。

- ★ シールトレーニングセンター
- 海外連結子会社
- 研究開発拠点



バルカーアメリカ (1998年設立)

バルカー・NGC (2017年連結子会社化)



Topics

バルカーシール上海竣工式

2019年5月27日に「新生シール上海 先端産業市場向け製品機能の変革に向けて」をコンセプトとした竣工式を執り行いました。

シール上海は、2000年12月21日に日本向けシール製品の生産工場としてスタート。その後、中国国内の発展に伴って製品構成を一新し、従来の輸出型企業から中国国内向け製品の生産工場へと舵を切ることで、成長を遂げられました。



バルカーシール上海 総経理 蒲原尊広

このたびの竣工式は、「新生シール上海」としての第2のスタートです。「半導体をはじめとする最先端分野において、最高品質の製品をつくり、中国で最も信頼される工場となる」。この目標を達成するために、チャレンジを続けていくことを誓いました。続く安全祈願式では、安全を祈願するとともに、バルカーグループの共通認識である「安全衛生は全てに優先する」に従業員全員が再確認。その後の壮行会では、瀧澤社長をはじめバルカーグループの来賓との歓談や、ダンスなどの催しがあり、バルカーグループの一体感を醸成するよい機会となりました。

これからもバルカーグループ一丸となり、当社の基本理念である「価値」と「品質」を高め、お客さまへの感動を提供し続けていきます。

バルカーと社会との関わり

私たちの“製品&サービス”が
さまざまなところで活躍しています

宇宙ロケット・人工衛星

メタル中空Oリング

宇宙空間においても漏れを防ぐほどの高機能ガスケットで、ロケットや人工衛星のほか、高温・高圧・高真空が要求される機器に使用されています。

工場・オフィス

LED照明

低消費電力で長寿命が特徴の製品です。豊富なラインアップで、幅広いニーズに対応可能であり、環境負荷の低減にも貢献しています。

医療機関

ふっ素樹脂切削テープ

ふっ素樹脂を高次元技術で切削した気密性・摺動性に優れた製品で、注射器用滑栓などに使用されています。

自動車

オートマチックトランスミッション(AT)用ガスケット

ATを制御する油圧コントロール装置（バルブボディ）に使用されるガスケットで、装置内の油をシールすることにより滑らかで応答性の良い変速を行うために使用されています。

船舶

グラッドバック

作動軸周辺からの漏れを防ぐ製品で、流体の搬送や遮断といった機能を担う回転ポンプやバルブで、主に使われています。

ジョイントシートガスケット

幅広い流体に対応する性能を持つ汎用ガスケットです。船舶・プラントなどのほか、住宅設備などあらゆるシーンで活躍しています。

製鉄プラント

高機能シートガスケット

従来の製品の性能を大きく上回り、特に高温耐性が要求されるプラントで活躍しています。

うず巻形ガスケット

金属の補強をつけた製品で、高温・高圧力で運転されるプラントの安全操業を支えています。

回転軸シール(LFR SEAL®)

摺動性に優れたシール材で、各種生産用機器の回転および揺動部向けに開発されました。

ふっ素樹脂ライニングボールバルブ
化学薬品に強いふっ素樹脂を接液部全面に採用し、幅広い種類の流体の制御に活躍しています。

化学プラント

ふっ素樹脂ライニング鋼管

化学薬品に強い、表面が平滑である、などのふっ素樹脂の特性を活かし、中を流れる流体の純粋性を保っています。

ふっ素樹脂ガスケット

化学薬品に強い素材でできており、配管や機器のつなぎ目から薬液やガスが漏れるのを防いでいます。

ふっ素樹脂加工品

高い絶縁性能を活かし、落雷の影響を無くす機器や送電量をコントロールする機器で用いられます。

変電所

半導体工場

再生シリコンウエハー

半導体製造装置の動作チェックなどで使用されたシリコンウエハーを、独自のノウハウで研磨・洗浄し、新品同様に再生・提供することで、環境負荷低減に貢献しています。

ふっ素樹脂ライニングタンク

ふっ素樹脂シートで内貼りした薬液用タンクで、半導体製造で使用される超高純度の薬液の貯蔵、搬送に欠かせない製品です。

高機能エラストマー

不純物の少ない特殊なゴムに表面処理を施した製品で、半導体製造に不可欠なクリーンな環境を保っています。

ボンデッドゲートシール

高機能エラストマーと金属の一体型シールです。高いシール性を持ち、シリコンウエハーの搬入口に用いられています。

携帯電話基地局・自動車

ふっ素樹脂基板

PTFEの優れた電気特性と耐候性を活かした基板材料がアンテナ機器周辺および自動運転にも使用され、安全・高速・大容量通信の実現に寄与しています。

太陽光発電

太陽光発電事業

九州バルカーの敷地内に設置されたメガソーラーは、日々クリーンなエネルギーを生み出し、地球環境の保全と地域への貢献につなげています。

建設機械

Oリング

静的・動的シールの代表的な製品で、用途に応じたゴム材料を使用することにより幅広い産業からのニーズに対応しています。

スラストプレート

ショベルカーなどのヒンジ可動部の隙間に組み込まれ、隙間調整、鳴き防止、カジリ防止などの役割を担っています。

ポータブルメディア

ふっ素樹脂テープ

高い絶縁性と優れた加工性を持ち、通信機器の性能向上と小型化に貢献しています。

シールエンジニアリングサービス

STC（シールトレーニングセンター）

バルカーの持つシールエンジニアリングテクノロジーをお客さまと共有し、プラントの安全な操業、機器の確実な作動につなげています。シール材の選定や適切な使用法についての座学と、現場の配管フランジを模した実習を行う体験型研修施設で、人材育成の場を提供しています。

H&S デモカー

新たに開発・取り扱いを開始した製品&サービスをデモ実演および体験を通じて全国のお客さまに紹介しています。

人材ダイバーシティの推進

グローバルに活躍する女性管理職

たび重なる困難に負けず、不屈の精神で日々喜びとともに働く一人の女性が、
バルカーコリアの黎明期を支え、バルカーベトナム立ち上げなどを通して自己成長を果たしていく

高機能エラストマー事業部長付バルカーコリア駐在

南 千佳 (ナム チョング)

バルカーコリアの管理部長として、総務人事、財務会計、経営管理、法務、安全衛生環境などの管理全般マネジメントならびに部下の育成を担う。

バルカーコリアの黎明期を支えた 4 人組

私は在日韓国人4世として、日本で生まれ育ちました。初めて手にしたパスポートの自分の名前すら韓国語で読めないことに悔しさと恥ずかしさを覚え、単身韓国に留学。大学卒業後、韓国大手会計法人のコンサルティング部門を経て、2004年にバルカーコリアに入社しました。バルカーの企業理念に強い共感を覚えたためです。当初バルカーコリアは7名体制でしたが、忙しくも充実した日々がスタートしました。

バルカーコリアの拡大に伴い、日本より2名の駐在員(櫻井所長、村井参事)が加わりました。瀧澤CEOが指名した“コリアの4人組”(梁社長、私、駐在員2名)は、2006年6月からの6か月間、マネージメントスクールに参加。そこで日々



夜中まで、バルカーコリアのあるべき姿やビジョンについて、熱い思いをぶつけ合いました。そして、チームとしての進むべき道(Valqua in Korea, Valqua from Korea, Valqua for Korea)という今につながるコンセプトを導き出したのです。今でもそのときのことを思い出すと、熱い気持ちが蘇ります。

バルカーベトナムの立ち上げを担う

2006年、管理職研修の一環である瀧澤CEOと執行役員によるラーニングの席で、瀧澤CEOは参加者に「夢は何か」と問い、私は「バルカーの海外進出に寄与したい」と答えました。

2008年春のある日、突然瀧澤CEOからバルカーコリアの私のところに電話がかかってきました。「今度、新たな海外地域に進出しようと思うが、行けるか」。突然の電話に戸惑いましたが、何の経験もない私にチャンスを与えてくれた瀧澤CEOの期待に応えたく、翌朝、「行かせていただきます」と回答しました。

行き先はベトナムのハノイ。工場はハイズンという、空港から車で1時間30分ほど離れた所です。私は、工場建築現場の視察、社員採用のため工場から車で40分ほどの村を訪れ、村人たちに会社紹介の説明会も実施しました。さらに、作業服のデザイン、生地や安全靴、名刺の手配などの実務も自分でやり、計算機を片手に一人でハノイ市内を駆け回りました。こうしてハノイでの業務がスタートしたわけですが、当初はベトナム人との価値観、仕事観の違いから来るギャップに悩まされた時期もありました。



周囲の支援を得て、日々喜びとともに働く

2010年春、一時帰国の際に受けた健康診断で、甲状腺ガンを発見宣告されました。「バルカーベトナムを軌道に乗せよう」と使命感に燃える中、まさに青天の霹靂です。このときは、当時の現地法人社長、現在の伏屋執行役員が有給休暇2週間で復帰できる策と一緒に考えて、セカンドオピニオンを4つの大学病院(日本と韓国)から入手。そして、一番早く手術を行ってくれる韓国の病院で手術を受け、ベトナムの現場に早期に復帰することができました。困難な状況でも常に前向きな気持ちでいられたのは、海外子会社の立ち上げという貴重な機会を与えてくれた瀧澤CEO、そして会社への感謝の気持ちがあったからです。

プライベートでは、2011年のベトナム駐在中に遠距離結婚をしました。その翌月に、後ろ髪を引かれる思いで総務副部長として本社に帰任。上司の川上部長からは「人を大切に、自ら素早く動く、親身になって動く」ことの重要性を教わりました。総務部では、BCPの構築プロジェクトにも参加し、有事の際には、普段からの現場力の高さが重要であることを痛感しました。

しばらくして、当社の高機能エラストマー製品の生産拠点を母国韓国にも建設することが決定し、私は韓国の平澤第1工場の操業とともに、2012年から管理部長として再び韓国で勤務することとなりました。

バルカーコリア10周年を終えた2015年4月、私は妊娠20週目を迎えていましたが、切迫流産で緊急入院。次の日から出社できず、同僚の協力を得ながら絶対安静を続けました。そして25週目を迎えた朝、760グラムの赤ちゃんを帝王切開で出産。毎日、母乳を赤ちゃんに届ける日々を経て、周



囲の力添えもあり、無事に我が子を家に迎えることができました。ところが1週間後、胸に違和感を覚えて病院へ。そこで乳ガンが判明し、急遽、全摘出の手術を行いました。

1年間の育児休暇を終え、2016年5月に役員室勤務、秘書チーム長として復帰。事業部での視点に加え、経営側の視点で物事をとらえることを学び、これが現在の私の業務を進めるうえで大きな助けとなっています。加えて、長年秘書として勤務している先輩の働きも側で見て、その献身的な姿に感動さえ覚えました。

復帰後2度目の本社での定時株主総会を終え、その翌月、平澤第2工場も加わり、従業員数は130名と急速に拡大したバルカーコリアに管理部長として駐在することになりました。

しかし、2018年9月には乳ガンが再発。手術後は、抗ガン剤の影響で、髪、眉毛、全て抜け落ちてしまい、ウィッグを使いながら乗り切りました。まだ治療中ではありますが、完治に向けて一步一步前進しており、周囲の協力を得ながら仕事を続けています。医者からは「ガンの克服にはポジティブシンキングが大切だ」と言われています。たび重なる困難を乗り越えられたのは、瀧澤CEOや会社の期待に応えたいという思いに加え、バルカーを通じて出会った多くの人々からたくさんの勇気や励ましをいただき、日々喜びとともに働くことができています。

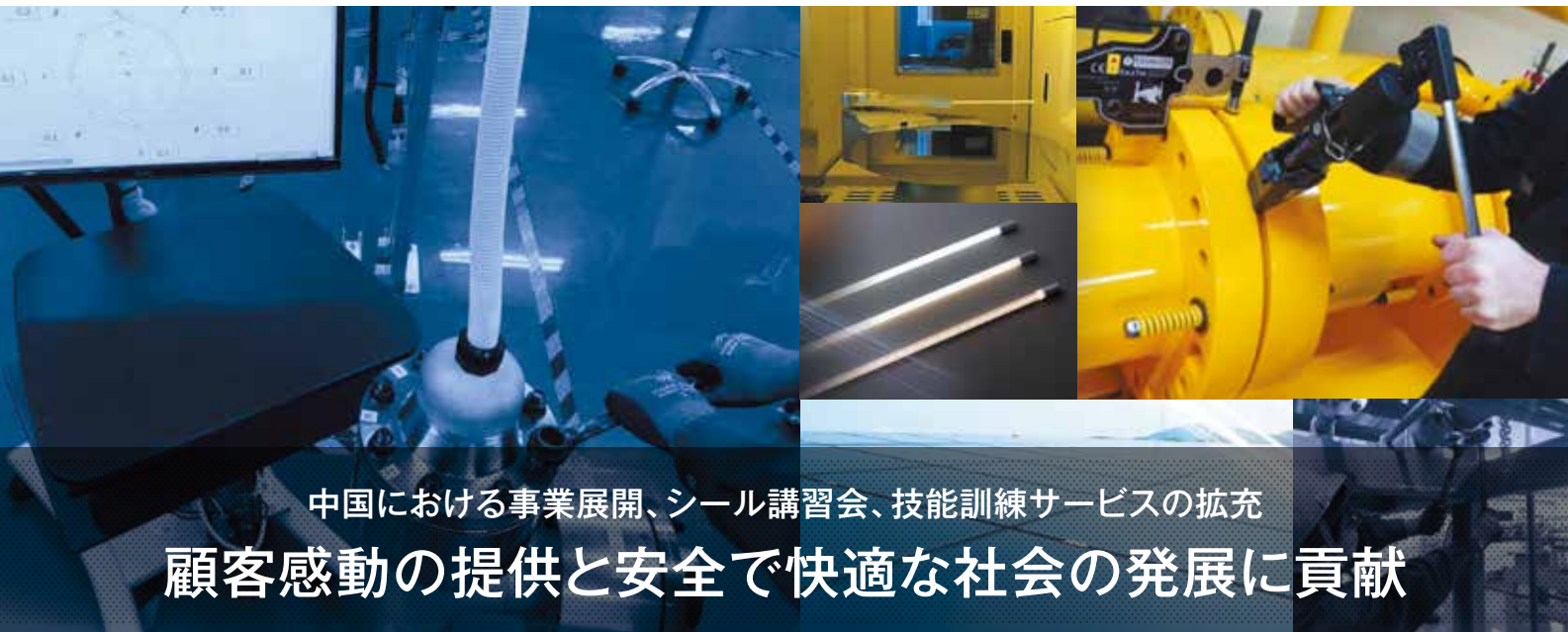
バルカーで学び、成長し続ける人生

バルカーコリア10周年にあたり、瀧澤CEOが工場作業員を含む全従業員を招待するサプライズパーティを企画され、全員に「成長の可能性を信じて自分色に染め上げなさい」というメッセージカードとともに、各々の名前入りの真っ白なハンカチをプレゼントしていただきました。



バルカーの製品は、見えない所で活躍し、大事なものを「つなげる」、そして「もらさない」ためのシール材です。バルカーはその社名の通り、「価値と品質の向上」を実現すべく、社員一人ひとりの人生とも向き合い、本人や家族、上司、同僚、部下、さまざまな関係者をつなげています。

また、バルカーは「人は一人では生きていけない」こと、「新たな価値に対して果敢に挑戦し続ける」ことの大切さを私に教えてくれました。私自身も、さらなる価値を創出すべく、これからもこの会社で挑戦を続けていきたいと思っています。



バルカーの中国における事業展開

バルカーグループの中国における事業展開は、1980年の上海ストックセンター開設を皮切りに、1995年の上海バルカーふっ素樹脂製品(有)設立、ふっ素樹脂の生産開始など、40年近い歴史を有しています。

2000年には上海の加工区(免税区)にバルカーシール上海(有)を設立して、シール製品の生産を開始。2002年に販売会社であるバルカー上海貿易(有)、2004年に中国シール研究所を設立、2007年には人材開発センターを開設するなど、製品の製造・開発・販売にとどまらず、グローバル人材の育成にも注力してきました。

2010年には日系ふっ素樹脂原料メーカーと業務・資本提携、2013年には欧州の原料メーカーとの合併でアドバンスフロンテクノロジーズ社を設立し、機能樹脂事業の強化を図っています。

グループが訴求している「H&S」の観点からは、石油化学プラントなどにおける確実なシール施工と技能教育への関与をいっそう高めるべく、2015年に中国総合研究所内にシールトレーニング施設を開設しました。



また、2003年からシールおよびふっ素樹脂製品の技術普及を目的とする「バルカー講習会」を毎年開催しています。この講習会は毎回、中国石油和化学工業連合会(CPCIF)と共催しており、中国市場におけるバルカーの技術のプレゼンスを高めるとともに、新たな顧客満足につながっているものと確信しています。

2011年1月、代表取締役会長CEO瀧澤利一は、中国经济人物表彰活動委員会が選出する「第8回中国経済の発展に尽力した人物100名」の一人に選ばれ、北京の人民大会堂で表彰されました。この表彰は、前記のバルカー講習会の継続的な実施など、中国進出企業としての永年にわたる貢献が高く評価されたことによるものです。

バルカー講習会の意義

発展が著しく変化の激しい中国市場においては、環境や安全に対する課題が浮き彫りとなっています。バルカー講習会は、当社シール製品への理解促進のみならず、こうした社会的課題の解決の一助となるものです。シールを適切に使用するための技術、IoT活用による周辺サービスにまで



範囲を広げ、その重要性を広く理解し活用につなげていただく機会としています。

昨今、中国有数の化学産業集積地である江蘇省において、プラント事故が多発しています。環境や安全に注目が集まる中、2019年3月5日に同省で開催されたバルカー講習会は、参加者から非常に高い関心が寄せられました。今後もこのような機会を提供することにより、中国における各種プラントの安全操業に貢献します。

また、バルカー講習会を通じて、常に最先端で付加価値の高い技術を紹介し、中国化学企業の信頼を得るとともに、顧客企業の真のニーズを把握し、バルカー独自のシールエンジニアリングサービスの浸透と新たな商品開発につなげていきます。

IoT 活用によるプラント操業の安全・安心

プラントの安全操業への関心が急速に高まる中、バルカーでは「スマート・プラント・メンテナンス」の普及を推進しています。これは、IoTなどの先進技術と当社のシールエンジニアリングを融合した独自のシステムで、プラント操業の保安力向上に寄与するものです。

今後もスマート・プラント・メンテナンスサービスの拡充を進めることで、中国のみならず世界のプラントの安全・安心操業に貢献していきます。



技能訓練サービスの拡充&グローバル展開

体験型の教育訓練施設である「シールトレーニングセンター (STC)」は、国内2拠点(東京都町田市、奈良県五條市)、海外5拠点(中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム)に開設し

ており、プラントオーナーやプラントエンジニアリング関連企業をはじめ、多くのお客さまから高い評価をいただいています。

また、国際海技訓練向けのプログラムを新たに開発し、世界初の海技訓練用シールトレーニングとして、日本海事協会から認定を受けました。さらに、フランジ締結における国際的なスタンダードとなっているASME PCC-1に準拠したトレーニングも開発し、日本海事協会の認定を取得。これにより、ガスケット締結体の組み立てに関するスキルを、座学と実技を通じて効果的に習得することができます。

今後もさらなるグローバル展開を推進するとともに、技能訓練サービスの拡充、世界のプラントの安全操業に貢献していきます。



Voice

中国の石油化学工業は、先進諸国に肩を並べる勢いで発展を遂げる一方で、運用管理面に課題を残しています。近年頻発しているプラント事故を防ぐには、シール材の適切な選定および適切な施工が欠かせません。そこでバルカーは、先進的な技術とソリューションを共有する講習会を中国で開催。環境に配慮した安全な生産の実現に貢献し、より高い次元で社会的責任を果たしていきます。



【STC受講者の声】

このたびバルカーのシールトレーニングセンターにて受講する機会をいただきました。ボルトの締結方法、ガスケットの選定方法、シール材の知識などを座学で学んでから、フランジ締め付け方法などを実技で体験。必要な知識とスキルを体系的に学ぶことができました。

人権尊重／ダイバーシティ

多様な価値観・個性を尊重し、一人ひとりが輝ける環境へ

国籍・性別・年齢などにとらわれることなく、
それぞれが最大限の力を発揮できる職場環境づくりと、ワークライフバランスの実現に努めています。

MY VALQUA WAY

グループ共通の企業理念「THE VALQUA WAY」を羅針盤にして、社員一人ひとりが仕事に対して問題意識を持ち、日々の業務に真剣に取り組んでいます。

その実践内容を発表し共有する機会として、毎年、全世界の拠点から選ばれた代表者による「THE VALQUA WAY 理解と実践活動の発表会」を開催。企業理念の理解と浸透を図るとともに、グループ社員の交流を通じてグローバルなびにダイバーシティマインドの向上に取り組んでいます。

人権の尊重

国連「グローバル・コンパクト」なども踏まえ、2017年3月に「バルカーグループ人権基本方針」を策定しました。グループCSR推進活動の中で、人権基本方針の周知や理解度の確認、ダイバーシティの進捗状況に関するアセスメントをグループ各社に対して実施。結果を分析し改善することで、人権に対する意識向上とダイバーシティのさらなる推進を図ります。

職場環境づくり・各種制度

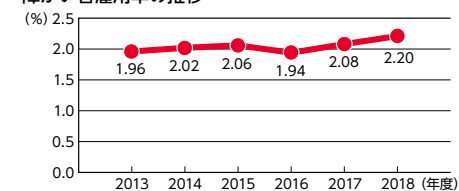
多様な国籍を持つ社員が活躍できる環境づくり

バルカーグループでは、外国籍社員の採用やグループ会社間での積極的な人材交流を行っています。例えば、海外赴任予定者への赴任前研修の実施、日本で働く外国籍社員への日本語教育のサポートなど、社員がグローバルに活躍できる環境づくりを推進。言語や文化の垣根を越えて協働する中で、多くの社員が新たな刺激や気づきを得ています。

障がい者雇用の促進

地域との共生を目指し、地元の支援学校などから障がい者の企業実習を積極的に受け入れています。障がい者の方

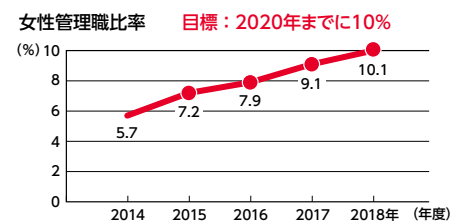
障がい者雇用率の推移



に働くことの楽しさや意義を伝えるとともに、入社後の職場定着と自立を支援しています。

性別を問わず活躍できる環境づくり

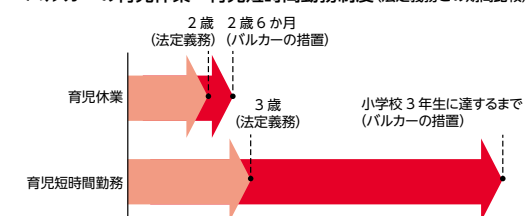
性別に関係なく、多様な視点を取り入れることで、さらなるイノベーションの推進を図ります。特に、女性のキャリア開発と成長を支援するため、女性管理職比率の目標を定め、積極的な登用を行っています。



子育て・介護支援策の充実

社員の柔軟な働き方を可能にするため、2018年10月より「育児のための有給特別休暇」「子どものバースデー休暇」「1時間単位の有給休暇取得制度」の新設に加え、介護休業の連続取得期間を最長3年に見直しました。また、休業中の社員に通信教育の受講を支援するなど、育児・介護と仕事を両立できる環境づくりを進めています。

バルカーの育児休業・育児短時間勤務制度（法定義務との期間比較）



柔軟な働き方を支援する制度

- キャリアリターン制度
- フレックスタイム制度（コアタイム13:00～15:00）
- 育児休業「2歳6か月に達する日まで」
- 育児短時間勤務「子どもが小学校3年生に達するまで」
- 育児のための有給特別休暇
- 子どものバースデー休暇
- 1時間単位の有給休暇取得制度
- 介護休業「連続取得期間を最長3年に」

人材育成

持続的成長に向けた人材育成

企業価値を形成する最重要項目が「人材育成」ととらえ、経営戦略として取り組んでいます。
全社員がその持てる力を発揮できるよう、育成プログラムの充実を図っています。

新入社員向け研修

現場の学びに重きを置いたOJT

新入社員研修では、バルカーパーソンとして求められる企業理念「THE VALQUA WAY」の理解やコンプライアンスに関する理解、製品知識などの必要な知識を身につけ、即戦力として活躍可能なプログラムを実施しています。

机上の理論ではなく現場での実践を通じて、モノづくりのDNAを肌で感じ、画一的ではない個々の強みや個性に応じた研修によって、「THE VALQUA WAY」に基づき、「変化に柔軟に対応しながら、自ら考え、自ら行動し、完遂できる人材」を育成しています。

目標管理と人事評価の仕組み

社員個人の目標は年度方針や部門ミッションをもとに設定され、「THE VALQUA WAY」と階層別の「求められる人材像」に則って日々の業務に取り組んでいます。

部署内の定期的な面談によりコミュニケーションを密にして、課題と改善点を明確化。より公正な人事評価制度を整備するとともに、バルカーグループの持続的成長に向けた人材育成につなげています。また、人事考課を行う管理職向けに、実践と組み合わせた研修も実施しています。

新入社員研修（H&Sの理解）



左）新入社員研修（STC 見学） 右）早期選抜プログラム

次世代の経営幹部候補の育成

選抜した中堅社員を対象として、長期計画に基づいて経営幹部候補を育成。数年ごとにステップアップ・ステージを設定し、激変する次世代を担う経営幹部にふさわしいマインドとスキルを備えた人材育成を目指しています。

H&S 企業への脱皮に向けた意識改革

バルカーグループの社会的責務は、事業環境の変化や技術革新が加速する中であっても常に「顧客感動提供企業」として、あらゆるステークホルダーから信頼を寄せていただける企業であり続けることです。2018年度から開始した第8次中期経営計画(NV・S8)においては、グループのH&S企業への脱皮に向けた取り組みを加速し、新たな付加価値の創造、そして健全で持続的な成長の実現に努めていきます。

その取り組みの一環として、「コア指導者」の育成をはじめとして、組織の階層ごとに段階的な落とし込みを行うことにより、組織全体に改革意識を浸透させ、グループ一丸となってステークホルダーの皆さまの期待にお応えしていきます。

中国拠点における人材育成

2007年にグループ内最大の生産拠点である中国上海に中国人材開発センターを設立。中国での現地化を加速させるべく、地域特性に合わせた教育体制を構築しました。現地拠点の経営を担う人材育成のために「中国経営幹部研修」を継続的に実施し、知識や能力の「底上げ」とともに人材の「選抜」を行っています。2018年より「中国人材開発委員会」を設置して、人材開発に取り組む意識を醸成するとともに、現地で主体的に人材育成・教育を行える体制を整備しました。

社内語学講座

社内講師による中国語・韓国語の語学講座を、入門コースや資格取得コースなど受講者のレベルに合わせて開催。また、語学学習支援制度としてオンライン英会話などを設け、社員の語学力向上に取り組んでいます。

SHE委員会

SHE = Safety, Health, Environment

さらなるSHE活動の推進に向けて、外部機関を活用したリスク管理を行いながら、SHEマネジメント体制の強化を図っています。

SHE 推進体制

◆ SHE 委員会

SHE(安全、健康、環境保全)を一元的に管理するため、CEOを委員長、COOを副委員長とし委員長が任命する関連執行役員で構成。グループSHE委員会は年1回以上開催され、SHE活動の「年度方針」「活動計画」の審議・承認、「実行状況」の確認を行い、グループ内への展開を図っています。

◆ SHE チーム

事業所もしくは会社単位を基本とし、関係会社社長や事業所長を統括責任者とする「SHEチーム」を設置。グループSHE委員会が承認された「年度方針」「活動計画」をブレイク

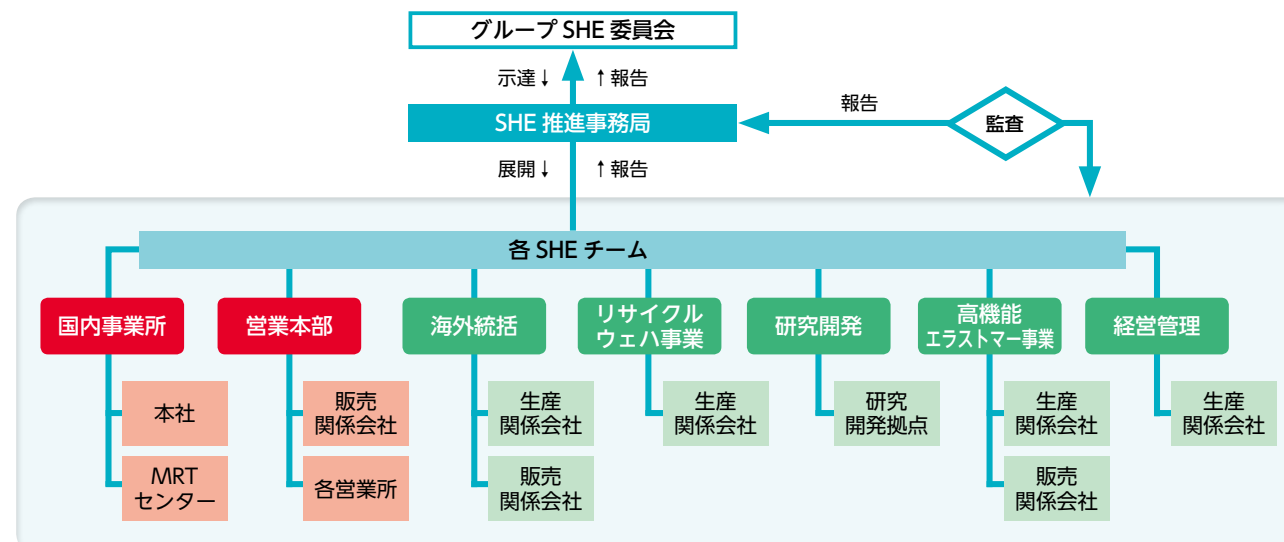
ダウンし、管理の実情、特有の事案、異なる法規制や国民性を考慮した自チームの「年度方針」「活動計画」を立案し実行しています。

2019 年度方針

2018年度活動の総括と「THE VALQUA WAY」、バルカーグループ安全衛生憲章、環境憲章、第8次中期経営計画(NV・S8)基本方針、2019年度Annual Policyをもとに、2018年度に抽出した取り組むべき重点課題を検証し、残された課題や、新たな課題を確認しました。

これに基づき、2019年度の年度方針・基本施策とその推進体制を以下のように定め、活動計画を立案し実行しています。

年度方針	基本施策	
知識力量の向上による SHE 活動強化	SHE 活動に必要な教育実施	■ 「安全行動調査」の実施と調査結果をもとにした不安全行動防止教育の検討 ■ 各チームの知識力量確保支援（安全衛生コンサルタント指導）と進捗管理
ハード（設備改善）および ソフト（ルール化と教育）による SHE リスクの排除	設備改善、ルール化の継続	■ 安全衛生コンサルタントによる安全衛生監査（改善進捗状況のフォロー） ■ 各 SHE チームとのコミュニケーション強化による改善、ルール化、運用の進捗管理 ■ 化学物質リスクアセスメント、緊急事態の対応についてグループ共通ルール制定と、各 SHE チームへの落とし込み
職場改善による メンタル不調者の発生抑制	組織分析結果に基づく 職場改善の推進	■ 外部専門家の指導による「要注意」「注意」職場の職場改善の推進 ■ 海外拠点のメンタル休職者、国内の「やや注意」職場の改善の実施状況のモニタリング



SHE基本方針

基本的な方針とSHE活動の推進

「安全衛生は全てに優先」「環境にやさしいモノづくり」などの行動指針に基づき、安全衛生憲章、環境憲章を定め、安全で衛生的な操業を行うための取り組み、地球環境の保全を目指した環境活動を推進しています。

SHE 活動推進の PDCA

グループSHE委員会では、年次で以下の活動の総括を行い、次年度の活動につなげています。

【Plan】グループSHE委員会で審議、決議されたグループ全体の「年度活動方針」「目標」「活動計画」は、各SHEチームに落とし込まれ、具体的な活動計画となります。

【Do】各チームは自チームの状況に応じた具体的な活動計画に基づき活動施策を実行します。

【Check】各チームの活動は、所轄するSHE委員が監督します。四半期ごとの活動施策の進捗報告、労災の発生件数やメンタル休職者数などのモニタリングデータをもとに、活動の検証を行い、改善指導や是正指示を行います。

【Action】各チームは改善指導、是正指示に対応しつつ活動を展開することにより、安全、衛生、環境に関する課題を継続的に改善していきます。

● バルカーグループ 安全衛生憲章 ●

バルカーグループは「安全衛生は全てに優先」することをグループ全員の共通認識とし、一人ひとりの自覚と責任の下、グループ一丸となって安全衛生活動に取り組む

● バルカーグループ 安全衛生方針 ●

安全衛生憲章に基づき次の方針を定め、現場においては、安全衛生活動を実践する

- ① 5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、大会を実施し、社員の安全衛生に対する意識の高揚および、無災害と心身の健康維持に向けての活動の起点とする
- ② グループの安全衛生に関わる管理体制の強化、維持向上を図る
- ③ 安全衛生を確保するため、関係法令・社内の規則などを遵守するとともに、問題意識を持って迅速且つ的確な改善を行う
- ④ 徹底した教育訓練のもと、安全衛生に関するリスクの低減に努める

Voice

安全衛生監査の実施

安全衛生コンサルタントによる安全衛生監査を2017年度より定期的に実施しており、工場幹部はもとより、現場スタッフにまで安全衛生に対する意識が浸透したことにより、タイバルカーの災害発生の減少につながっています。今後も監査やSHE活動を通し、安全衛生活動をさらに活性化し、災害ゼロに向けて邁進してまいります。



● バルカーグループ 環境理念 ●

バルカーは環境理念に基づき地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に努め、企業の成長および持続可能な社会の形成を目指します

● バルカーグループ 環境方針 ●

環境理念に基づき、次の方針を定め、社員一人ひとりが良き地球市民としての行動をとり責任を果たしていきます

1. バルカークグループ全体の環境管理システムを構築し、維持向上に努め、運用を確実なものとする
2. 国内外の法律、規則、条約、協定、などを遵守するとともに自主基準を設け一層の環境保全に努める
3. 他産業および社会との連携を図り、環境に配慮した商品の創造およびサービスの提供に努める
4. 事業活動の全ての領域で、3R(Reduce.Reuse.Recycle)の強力推進をもつて、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減および汚染リスクの回避に努める
5. 地域社会はもとより広く国際社会への環境情報を開示し、社会との連携と協力に努める
6. 環境教育を通して、バルカークグループ全構成員の環境憲章の理解と、環境に関する意識向上を図る

安全衛生推進活動

災害ゼロと従業員の健康づくりを推進

SHE委員会発足後も、従来から重点的に取り組んできた安全衛生推進活動を徹底し、災害ゼロを目指した活動と、従業員の心身の健康づくりに努めています。

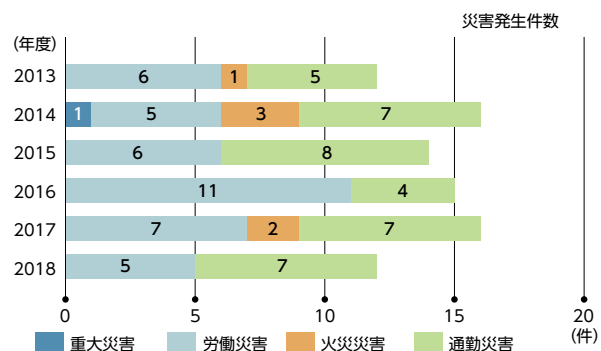
安全衛生推進活動

◆バルカーグループ安全衛生の日

5月18日を「バルカーグループ安全衛生の日」と定め、海外を含めたグループ全ての拠点で安全衛生大会を開催しています。

◆積極的な安全衛生推進活動

バルカーグループにおいてもビジネスのグローバル化が進む中、国ごとに異なる法規制や国民性などに伴うリスクが顕在化。こうした国ごとに異なる法規制や国民性に合った活動をきめ細かく、かつ遅滞なく行うことで、グループ理念の根幹である「安全衛生は全てに優先」を実現できると確信しています。また、健康経営の視点から従業員の健康づくりにも注力し、安全・衛生の両面から健康的で明るい職場づくりや産業医による保健指導を積極的に推進しています。



安全衛生管理者の教育と訓練

①法令遵守管理、監視レベル向上による法令違反撲滅

外部専門家による各工場への安全衛生監査や安全研修を実施し、危険箇所を事前に発見できるスキルの向上に向けた活動を推進しています。

②ルール化と教育の徹底によるリスク排除

設備、作業、化学物質などのリスクアセスメントを推進し、定常・非定常作業のみならず生産拠点の移管に伴うリスクの排除に努めています。



左) 上海バルカー 安全祈願 右) 奈良事業所 安全衛生大会

心と体の健康管理

①有機溶剤作業の使用低減

有機溶剤を使用しない衛生的な環境の実現に向け、代替剤への切り替えを促進しています。

②ストレスチェック制度

メンタルヘルス不調を未然に防止するため、個人だけでなく、職場ごとに集団分析も実施し、その結果をもとに改善に向けた研修を行っています。

③健康診断の実施

全従業員の健康診断受診率は2次検査も含め100%。希望者を対象に、産業医との健康相談を毎月実施しています。

④インフルエンザ対策

感染しても重篤化しないよう予防ワクチン接種を推奨し、産業医と連携して感染時の対処方法や拡散防止策を周知徹底しています。

⑤禁煙活動

喫煙の有害性をポスターなどで周知し、喫煙室の利用制限や禁煙率を高める啓蒙活動を実施。煙草の代替になるようなガムやアメを入れたリフレッシュBOXを設置して禁煙率を高める試みも継続しています。

⑥運動習慣の推奨

1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上継続することで生活習慣病を予防し、活き活きと働ける健康な職場づくりを目指しています。

環境保全への取り組み

サプライチェーン全体で環境活動を推進

地球環境の保全が人類共通の最重要テーマの一つであると認識し、環境負荷を低減するための活動に努めています。

※1 COD：化学的酸素要求量
※2 SAICM (Strategic Approach to International Chemicals Management)：国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ

環境リスクマネジメント

国内外生産関係会社ではISO14001システムによる環境活動を実施し、特に法令管理について運用レベル評価を実施。弱点を認識し、潜在リスクの顕在化とその予防処置を講じるにより、未然に違反を防止する体制を強化しています。

2018年度は、COD※¹について異常値を記録した事業所がありましたが、排水経路の洗浄などにより規制値内に改善しました。現在は異常値の原因を究明するとともに、引き続き測定頻度を上げて監視しています。また、全ての事業所で悪臭や騒音などによる近隣からの苦情発生はありませんでした。

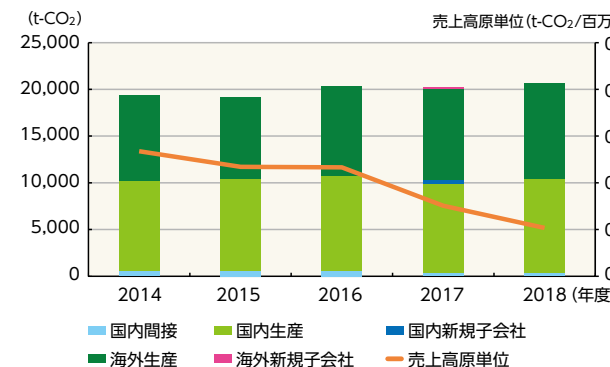
世界的にリスク管理強化が求められている化学物質管理については、SAICM※²により、各国でも法整備が進んでいます。

2018年度事業活動に伴う環境負荷データ

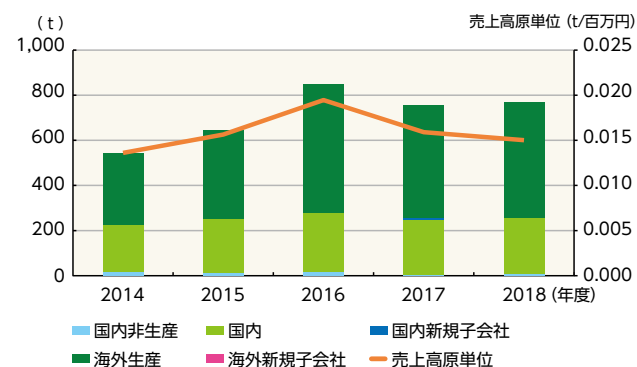
INPUT	エネルギー	合計 161,896 GJ
	電力	36,201 MWh
	うち太陽光	52 MWh
	A重油	241,950 ㍓
	LPG	66,384 ㎡
	天然ガス	121,082 kg
	都市ガス	493 ㎡
	灯油	124,286 ㍓
	軽油	36,175 ㍓
	ガソリン(社有車)	57,827 ㍓
OUTPUT	水の使用	合計 392,041 ㎡
	上水	80,634 ㎡
	工業用水 他	311,407 ㎡
	CO ₂ 排出量	合計 20,583 t
	生産関連	20,191 t
	その他	392 t
	廃棄物	合計 771 t
OUTPUT	廃プラスチック類	471 t
	汚泥	134 t
	紙くず	78 t
	他(廃酸、廃アルカリ、廃油、木くず、繊維くず、金属くず)	87 t
	化学物質*	21種類
		69,829 kg

*化学物質：PRTR法の届出対象物質および同様の海外法規制により排出量を把握している物質を含む

温室効果ガス排出量推移(生産部門+間接部門)



廃棄物最終処分量推移(生産部門+間接部門)



*温室効果ガス排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律(国対法)」に基づく温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の各燃料および電力の排出係数を毎年再確認し、算定しています。電力は、排出係数が明確でない海外拠点もあるため、一律に代替値を使用しています。(2014年度：0.000551 t-CO₂/kWh、2015年度：0.000579 t-CO₂/kWh、2016年度：0.000587 t-CO₂/kWh、2017～2018年度：0.000512 t-CO₂/kWh)

顧客満足への取り組み

安全で安心な製品・サービスを提供するために

4つの品質「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させるべく、さまざまな活動に取り組み、日々改善に努めています。

品質保証体制と方針

グローバルな体制の一環として、グループ全体を統括する「グループ品質保証委員会」を組織しています。国内外の生産関係会社や販売関係会社を管轄する事業部・本部をはじめとして、研究開発や人材開発など品質に関わる各部門責任者で構成し、その決定事項の具体的展開を指示すると同時に日々の実行に責任を持つことで、グループ全体の実効性を高めています。

また、「品質方針」に基づいて、組織ならびに社員一人ひとりが具体的目標を掲げ、品質向上活動に取り組んでいます。そのうえで、関連法規制を遵守、お客さまの求めに合致した品質を担保し、安全な製品とサービスを提供しています。

バルカーグループ 品質方針

「THE VALQUA WAY」に基づき、「製品とサービスの品質」「プロセスの品質」「組織の品質」「人の品質」を継続的に向上させ、「顧客接点の品質」「製品の品質」を保証する。

4つの品質

- ① 製品とサービスの品質
- ② 製品とサービスをつくりだすプロセスの品質
- ③ 製品とサービスをつくりだす組織の品質
- ④ 組織を構成する人の品質

品質マネジメントシステム

生産関係会社およびグループ本体の営業部門を対象としたISO9001の認定を取得しています。また、生産関係会社の品質管理責任者は本社品質保証部の管轄とし、月単位あるいは週単位で各社品質活動の実行状況管理を行っています。

さらに現場では、定められた標準・基準に基づいた業務の確実性を担保するために、作業者自身による作業前の確認活動を実施し、不具合の発生を未然に防止。日常業務を一つひとつきちんと積み上げることによって、高品質を確保できるよう努めています。

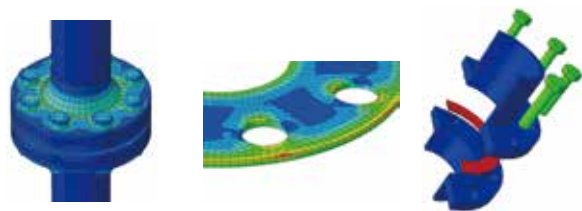
また、生産関係会社および製造委託協力会社に対する指導・監査の実施に加え、品質保証活動の監査を専門に行う品質監督室を設け、グループ全体の品質レベル向上に邁進しています。

評価技術

シール製品の使用環境は多様であり、全てのお客さまを対象に評価・検証を行うことは、これまでは現実的に困難でした。こうした課題に対して、FEA(有限要素解析)を用いて使用環境をコンピューター上で再現・検証する次世代評価技術の開発に取り組んでいます。

この取り組みにより、これまで困難であった大口径装置、高温や高圧条件での検証が可能となり、漏えいや破壊などシール製品における不具合の原因究明や再発防止のための設計提案を行っています。今後もこの技術開発に積極的に取り組み、全てのお客さまの安心・安全に貢献していきます。

三次元解析



シール製品検索ウェブサイト「Seal Quick Searcher」

製品選定に悩むお客さまの要望にお応えし、選定ミスによるトラブルを防止するため、多様な切り口での製品検索サイトを開設しています。流体・温度・圧力などの使用環境、キーワード、産業分野などから当社推奨製品を検索できるサービスや、取り扱いに必要な締付け力の自動計算サービスなどによって、今すぐ最適な製品を選定したい、必要な情報だけをを用いて技術資料を作成したいというお客さまの個別課題をリアルタイムに解決。今後も本サイトの充実を図り、幅広い視点でお客さまの期待に応えていきます。

※「Seal Quick Searcher」は当社ホームページトップ画面よりご利用いただけます。

サプライチェーンマネジメント

サプライチェーン全体でCSRを推進

サプライチェーン全体に参加する全ての企業が社会の要請に応えることで社会的責任を果たせるものと考え、パートナーであるサプライヤーとの連携を強化し、サプライチェーン全体でCSRを推進していきます。

CSR 調達ガイドライン

バルカーグループは、社会・環境・人権などにも配慮した調達活動に取り組むべく、2016年に「CSR調達ガイドライン」を制定しました。企業理念「THE VALQUA WAY」と「CSRコンセプト」に基づき、「調達基本方針」として5つの方針を掲げています。サプライチェーン全体でのリスクを最小化し、健全な調達活動を推進します。

CSR 調達の推進

サプライチェーン全体でのCSR調達を推進する活動の一つとして、各サプライヤーにおけるCSR推進状況を確認するための自己評価アンケートを実施しています。

2018年度は、取引額の8割以上を占める主要な調達・購買先であるサプライヤーを対象にアンケートを実施。アンケートは調達基本方針に沿った項目(8項目・20設問)とし、各サプライヤーにおける法令遵守、公正取引、環境への配慮、人権尊重、安全衛生などの取り組み状況を確認しました。アンケートの回答率は100%。CSRの重要性を共通認識とし、サプライヤーとの連携を強化しました。

実施したアンケートの回答をもとに点数化した結果、設定している目標値を上回っているサプライヤーは86%でした。調査結果は各サプライヤーへフィードバックすることで、情報共有を図るとともにさらなる活動の推進を要請しています。目標値を下回ったサプライヤーは改善指導対象とし、取引を継続していくために個別に教育資料を提供するなど、CSR調達の実現に向けた継続的な支援・協働の取り組みを行っています。

今後、さらに活動を推進していくため、アンケート内容を精査するとともに、サプライヤーに対する個別の支援などを通じてCSR調達の定着を目指します。

紛争鉱物※への対応

バルカーは、紛争鉱物への対応を企業の責務ととらえて、CSR調達ガイドラインに対応方針を定め、調達品の調査をしています。今後もサプライヤーと連携して、人権侵害に加担しない取り組みを強化していきます。

※紛争地域で人権侵害、不正などを行う武装グループの資金源となる鉱物

CSR アンケート回答

2018 年度平均 目標 80 点 ⇒ 実績 89 点

バルカーグループ 調達基本方針

1. 法令・倫理の遵守

法令・社会規範を遵守し、健全で公正な企業活動を実践するとともに、サプライヤーに対し社会的責任を意識した行動を要請します

2. 公正な自由競争の原則

世界中のサプライヤーから優れた部材・サービスを最適な地域から公正な競争原理にて調達活動を行います

3. 環境保全に配慮した企業活動

製品に使用する資材について、地球環境に配慮した調達を積極的に行います

4. 人権への配慮

人権尊重を徹底した企業活動を実践します

5. 安全衛生

企業における潜在危険有害要因を未然に予知・対策することにより災害防止に努めるとともに、適切な健康管理を実施し、安心して働ける職場の安全衛生を維持向上させる活動を実践します

バルカーグループ CSR調達基準

1. 法令・倫理の遵守

- ①企業活動における法令遵守の徹底
- ②不適切な利益授受の禁止 ③適切な輸出入
- ④知的財産権の尊重と保護 ⑤情報管理
- ⑥情報のセキュリティ ⑦紛争鉱物 ⑧労働

2. 公正な自由競争の原則

- ①開かれた購買 ②公平かつ公正な購買活動

3. 環境保全に配慮した企業活動

- ①環境関連法令・規制の遵守
- ②環境に配慮した生産プロセスにおける維持管理の徹底
- ③環境負荷物質の低減・削減
- ④公害防止、環境保全 ⑤大気汚染

4. 人権への配慮

- ①個人情報の尊重 ②非人道的な扱いの禁止 ③差別の禁止

5. 安全衛生

- ①職場のリスク管理 ②衛生管理

地域社会との共生

社会貢献活動の推進

世界中の各拠点で、地域に根ざした社会貢献活動を行っています。
社員一人ひとりが、バルカーを取り巻くたくさんの人々と共に考え、自ら進んで行動していくことを目指しています。

地域社会に対する感謝の日

世界中の人々とより豊かな未来を築いていくために、私たちに何ができるのか。その答えの一つが、毎年行っている「地域社会に対する感謝の日」です。

世界中のグループ会社の各事業所・営業拠点・工場で、地域社会に根ざしたボランティア活動を実施。2018年度は世界45か所、総勢1,520人の社員と家族が参加して、海岸や道路清掃、花壇の花植え、養護施設支援のための募金活動などを行いました。

バルカーシール講習会

バルカーグループは、化学工場などの安全操業対策として、中国石油・化学工業連合会と共に「バルカーシール講習会」を開催しています。中国で2003年から毎年行われ、

2018年に14回目を迎えました。講習会には中国企業を中心に、100名以上の技術者が参加しています。工場などで使用されるシール材の正しい取り扱い方法、製品に関する技術講演などを通じて、安全操業を促進しています。

CSR 活動の推進

◆イベント運営を通じた社員教育

活動の一つである「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」には、100名を超える役員・社員が主催組織と協働する形で大会運営に携わっています。これは企業理念「THE VALQUA WAY」を背景としたCSR活動の実践であると同時に、通常の業務とは全く違う世界での貴重な学びの場であり、このプロジェクトを通して社員のさらなるホスピタリティ精神の醸成を図っています。



上段) 左からタイバルカー、バルカーコリア、九州バルカー
下段) 左から上海バルカー、奈良事業所、本社（花いっぱい大崎）

国際支援／スポーツ支援

グローバル社会の一員として、社会に、未来に貢献

地域の発展に向けた社会貢献活動を展開しています。
また、長年にわたりCSR活動の柱の一つとしてスポーツ支援を行い、明るい未来づくりに努めています。

社会貢献団体の活動支援

そのままでは廃棄されるだけの古紙や古切手、ペットボトルキャップは、NPO法人へ寄付することで活動支援となります。ペットボトルのキャップは分別回収して、「NPO法人エコキャップ推進協会」へ寄付。また古切手を集めて福祉団体「国際協力NPOジョイセフ」や「誕生日ありがとう運動本部」へ寄付する活動を行っています。

一つひとつは小さな活動ですが、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを贈る活動や、生活支援へとつながる大切な活動と考えています。

◆難民支援

バルカーグループは、国連UNHCR協会を通じて※UNHCRへ寄付することにより、紛争や迫害などによって故郷を追われた難民・避難民を支援しています。以前には社員の支援寄付額に対して会社より同額を上乗せして寄付を行うマッチング寄付を実施しました。また、チャリティマラソンへの社員ランナー出走を通して、難民・避難民の避難生活を支えるキャンペーンへの寄付を行いました。今後もさまざまな寄付のスタイルでグローバルな支援を続けてまいります。



© UNHCR/Sebastian Rich

【寄付先からのメッセージ】

難民支援に温かいご支援をお寄せいただきまして、誠にありがとうございます。
2018年末時点、UNHCRの支援対象者は約7000万人となりました。一人でも多くの難民が安心して暮らせる日を迎えられるよう、尽力して参ります。引き続きのご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※ UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。スイス・ジュネーブに本部を置き、約135カ国で援助活動を行っています。この国連の難民支援活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。

【2018年度 寄付実績】

ペットボトルキャップ 139kg（ポリオワクチン69人分）
古紙・古切手などによる寄付 64,445円
ブラインドダンス協会へ社員募金の寄付 146,000円
チャリティマラソンを通じた難民支援 500,000円

「ボールルームダンス」の振興支援

生涯スポーツとして幅広い世代に支持され、また華やかな競技スポーツとして世界各国に多くのファンを持つボールルームダンス。バルカーグループは、その振興支援活動に2014年から取り組んでいます。

バルカーが支援している大会は、真の日本一を決定する最高峰のダンス競技会「バルカーカップ統一全日本ダンス選手権」、ジュニア・ユース世代の全国大会「小・中・高校生全日本チャンピオンシップ」、視覚障がい者の全国大会「全日本ブラインドダンス選手権大会」など。

また、2018年度には、国内外のトップ選手が一堂に会した「日本インターナショナルダンス選手権大会」の支援も行いました。

これからもスポーツ支援を通して、子どもたちの健やかな成長を応援し、健全で活力のある社会の形成に貢献していきます。



上) 全日本ブラインドダンス選手権大会
左中) 小・中・高校生全日本チャンピオンシップ
右中) バルカーカップ統一全日本ダンス選手権
下) 日本インターナショナルダンス選手権

コーポレートガバナンス

多様なメンバーによる、グループ経営体制を構築

経営理念「正正堂堂と」を基本姿勢とし、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を可能にする経営体制を構築。持続的な成長と企業価値の向上を目指し、最良のコーポレートガバナンスを追求しています。

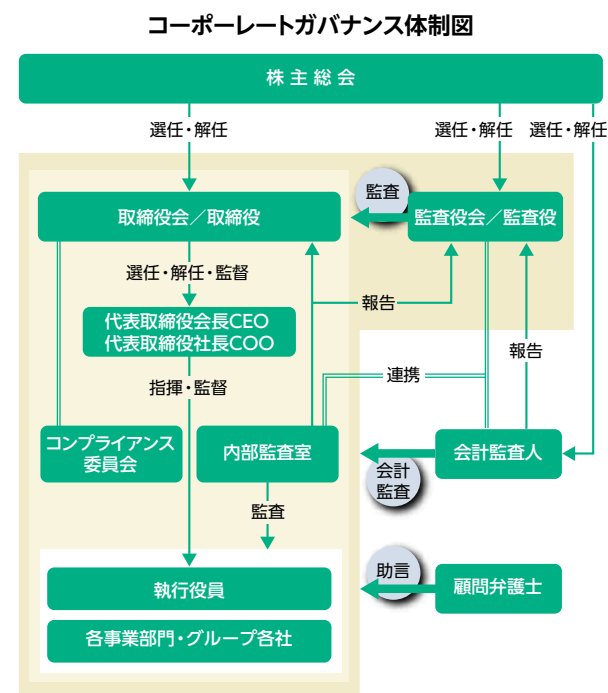
コーポレートガバナンス

◆基本的な考え方

バルカーグループは、企業理念である「THE VALQUA WAY」のもと、シールエンジニアリングのパイオニアとして、企業の持続的な成長による企業価値の向上を実現するため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための経営体制を構築し、最良のコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでまいります。

◆コーポレートガバナンスの状況

経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の役割を分離した機動的なグループ経営体制を確立しています。また、公認会計士2名、弁護士1名を含む監査役が、取締役および執行役員の業務執行につき監査を行うことで、経営に対する専門性の高い監視・監査機能を果たしています。



取締役会・監査役会の構成（2019年9月1日現在）

取締役 7名（男性5名、女性2名）
うち社外取締役3名（男性1名、女性2名）

監査役 4名（男性4名）
うち社外監査役3名（男性3名）

◆内部監査室

グループの事業活動全般に関して内部監査を実施するため、取締役会直轄の業務執行部門から独立した内部監査室を設置しています。内部監査室は年間監査計画に基づき、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントなどの幅広い観点から監査を実施し、評価・提言を行っています。

内部統制システム

業務の透明性と信頼性を確保

透明性の高い業務プロセス、適切なリスク管理体制を構築することによって、内部統制システムの整備・推進に努めています。会社法などに基づく「内部統制システムに関する基本的な考え方」を取締役会で決議し、この内容を外部環境・内部環境の変化に応じて適宜見直しています。また、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制報告制度への対応として、内部統制の体制構築、社内規定・規則や業務プロセスの整備・評価・改善を行っています。

2018年度においては、財務報告が有効である旨を記載した内部統制報告書を、監査法人による適正意見を得たうえで開示しました。財務報告の信頼性を確保するための取り組みを継続しています。

コンプライアンス

一人ひとりのコンプライアンス意識向上

企業理念「THE VALQUA WAY」に基づく行動指針として「コンプライアンス遵守と誠実な行動」を定め、全グループ社員が常にこれに従って行動することを求めています。

コンプライアンス

◆基本的な考え方

バルカーグループにおける「コンプライアンス」とは、法令遵守にとどまらず、他の企業の模範となるべく積極的に法令や条例以上の企業倫理を遵守し、社会貢献や環境への配慮にまで踏み込んだ企業行動の実践によって、ステークホルダーの要求・信頼に応え、社会における信頼を勝ち得ていくことです。このコンプライアンスの重要性を理解し実践することが、バルカーグループの永続的な成長・発展を約束するものであると固く信じています。

◆コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会、コンプライアンス推進委員会を設置し、コンプライアンス推進の最高責任者として任命された「チーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）」を中心に、グループコンプライアンス体制の整備および向上に取り組んでいます。

コンプライアンス遵守のためのグループ体制の強化とリーガルマインドの醸成を基本方針とし、2018年度からはCCO管下にコンプライアンス監督室およびコンプライアンス推進室を設置し、推進と監督の両輪から、健全で持続的な会社の成長基盤づくりに貢献する体制へ変更しました。



◆コンプライアンス・マニュアル

全グループ社員の業務の指針とするため、コンプライアンス・マニュアルを2003年に制定し、各国の言語(英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語)に翻訳して共有しています。

法令・環境保全・情報管理・反社会的勢力などの一般的事項をはじめ、営業活動・職場環境・私的行為に関する事項に分類。全社員が理解し、遵守すべきマニュアルとして活用しています。

◆社員教育

コンプライアンスに関する社員教育として、コンプライアンスセミナーを行っています。2018年度からは、従来からの階層別教育のほか、コンプライアンス推進室がバルカーグループ内の全拠点を対象に巡回して実施しています。

その他、コンプライアンスに関わる身近でタイムリーな話題を取り上げたリーガルニュースを毎月発行し、社員への啓発を図っています。



コンプライアンス／リスクマネジメント

多様なリスクの的確な把握と対処に努めています

事業に関わる多様なリスクの把握と予防、顕在化した場合の危機管理を含め、
安定的な事業継続を図るためのリスク管理体制を構築しています。

◆知的財産権の尊重

バルカーグループは、経営理念の一つに「独創的技術で」を掲げ、この独創的技術とサービスを融合させた「真のソリューション提供企業」への脱皮を目指しています。知的財産部では、こうした企業活動で創出される価値を適切に保護し、お客さまの課題解決につながる製品やサービスの提供を支援。また、他社の知的財産権を尊重するために社内ルールを定め、このルールを遵守する体制を構築しています。具体的には、自社製品やサービスが第三者の知的財産権を侵害しないよう、研究開発のさまざまな段階で第三者の知的財産権の調査を徹底。この調査は、知的財産部と研究開発部門の協力体制のもと、グローバルに行うことで、コンプライアンス遵守の徹底を図っています。

◆報告・相談・通報制度

グループ社員が法令や社内規定・規則などに関わる報告・相談・通報ができる仕組みとして、外部・内部での複数の窓口を通じた報告・相談・通報制度を設けています。

外部窓口

①社外弁護士

②外部委託機関が運営する企業倫理ホットライン

(日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語対応)

内部窓口

③意見箱

④CEOと直接コミュニケーションできるCEOダイレクトライン

これらの制度は、通常の指揮命令系統から独立して運営されているため、情報は秘匿され、報告・相談・通報したことによって社員に不利益が課せられることがないように運用されています。なお、報告・相談・通報件数の実績は、2017年度は5件、2018年度は19件でした。引き続き本制度に基づいて、報告・相談・通報された件に対する適切な対応を行うとともに、制度の利用を促進していきます。

リスクマネジメント

◆基本的な考え方

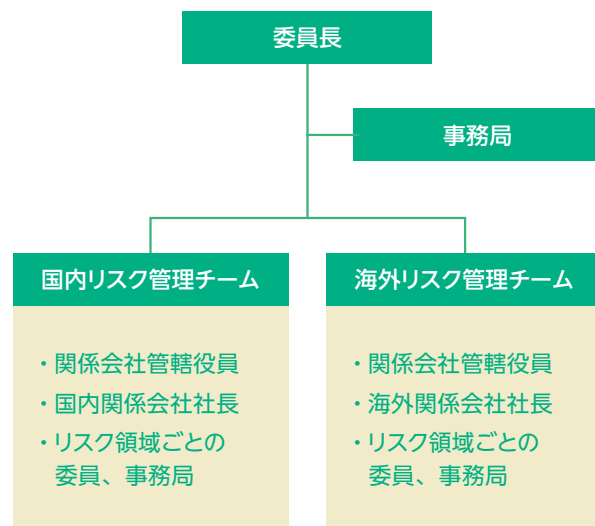
第8次中期経営計画(NV・S 8)においては、事業領域のさらなる拡大と従業員数・拠点数の増加が見込まれています。また、企業への社会的な要請が高まる中、リスクマネジメントにおいてもその質が問われています。

バルカーグループはステークホルダーとの信頼関係を維持し、事業を安定的に継続していくために、多様化するリスクとその影響を的確に把握し、コントロールできる管理体制を構築しています。

◆リスク管理体制

バルカーグループは前中期経営計画(NV・S7)からリスクマネジメントの強化を図ってきました。その要となる「リスク管理委員会」は、国内外の事業環境の急激な変化と事業領域の拡大に伴って多様化するグループ経営上のリスクを一元管理するために設置されました。

リスク管理委員会が中心となって、国内外のグループ会社を取り巻く事業リスクを一元管理することで、バルカーグループを取り巻く環境の変化へ柔軟かつ的確に対応していきます。



編集方針

本レポートは、バルカーグループの持続的成長に向けた基本的な考えと、CSR活動における重点課題に沿った取り組みをステークホルダーの皆さまにお伝えするため、毎年発行しています。

報告対象期間

2018年4月～2019年3月

報告の一部に2019年4月以降の数値と内容を含みます。なお、体制図、方針、基準などは、2019年9月現在のものです。

対象範囲

株式会社バルカーおよびその連結子会社

(障がい者雇用率、女性管理職比率は単体数値としています)

発行

2019年9月発行

(前回発行2018年12月)

報告媒体

冊子・PDF版	重点的な取り組みを年次レポートとしてまとめています。
	「CSR情報」 http://www.valqua.co.jp/social/
WEB版	WEBサイトには最新情報・追加情報を網羅的に掲載し、随時更新しています。
	「技術情報」「IR情報」「会社情報」など http://www.valqua.co.jp/

『現代ガasket 概論』のご紹介

ガasketとボルト締めフランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した業界初の“ガasket解説書”

近年のさまざまな環境規制に伴い、ガasketの種類およびその材料は大きく変容し、ボルト締めフランジ継手の設計基準にも大きな動きが見られます。そうした技術的情況を受け、JIS規格「パッキン及びガasket用語」も37年ぶりに全面改正されました。

このほど刊行いたしました『現代ガasket概論』は、JIS用語規格改正に至った技術的背景をたどるととも

に、ガasketとボルト締めフランジ継手の技術的基礎をわかりやすく説明した、初めての“ガasket解説書”といえるものです。ガasketにかかわる多くの方々に、参考にしていただける内容となっています。

著者：株式会社バルカー シニアフェロー 西田隆仁
(お問い合わせ先：総務人事部 sr@valqua.co.jp)



会社概要

株式会社バルカー

本 社：〒141-6024

東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

創 業：昭和2年1月21日

設 立：昭和7年4月8日

資本金：13,957百万円

上場証券取引所：東京証券取引所市場第一部

従業員数：445名（グループでは1,846名、2019年3月31日現在）

事業内容：産業機器、化学、機械、エネルギー、通信機器、半導体、自動車、宇宙・航空産業など、あらゆる産業向けにファイバー、ふっ素樹脂、高機能ゴムなど各種素材製品を設計、製造、加工および販売



子どもたちの 夢いっぱいの未来を大切にしたい。

その思いを込めて、グループ社員の子どもたちの笑顔で表紙を飾りました。

バルカーグループ

お問い合わせ先：株式会社バルカー

総務人事部 TEL 03-5434-7370 FAX 03-5436-0560

〒141-6024 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower 24階

<http://www.valqua.co.jp>

